

令和6年度 南部地区子ども支援net 議事録

日時：令和7年1月10日（金） 13:30 ～ 16:00

場所：瀬戸内町きよら島交流館

参加者： 47名（※詳細は別紙）



1. 開会あいさつ

瀬戸内町保健福祉課

課長 信島 浩司 氏



2. 説明（奄美地区地域自立支援協議会について）

3. ミニ研修

「感情を調整する力の発達とその支援」

鹿児島大学大学院臨床心理研究科 准教授 高橋 佳代 氏

2025.1.10
南部地区子ども支援net

感情を調整する力の発達とその支援

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科
臨床心理士・公認心理師
高橋 佳代

スポットライトを削除

Kayo Takahashi

5. グループワーク

「奄美中部での困り感のある子どもや、その家族を支える人たちの連携について」

1グループ

- のぞみ園①
- ここ園①
- チャレンジドサポート奄美
- 阿木名小
- 奄美市教委
- 瀬戸内町保健福祉課①



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・ 様々な機関の専門職同士で悩みの共有や意見交換を行うことができた。
- ・ 瀬戸内町では、STに協力してもらい、言葉の相談事業という取り組みを行っているということ共有することができた。
- ・ 保護者の思いが強く、関りが難しい場合の対応に苦慮している状況について悩みを共有したが、専門職の方から、根気強く関わり続けていくことが大切というアドバイスをいただく事ができた。
- ・ 支援者も悩んでいるかもしれないが、保護者も同じように悩んでいるという状況にも目を向けて支援していくことの大切さを改めて感じる事ができた。
- ・ 登校拒否になっている児童の支援について、学校に行けることも大切だが、事業所等に繋がっていることで本人が安心できる場所へ行けるということを受け止め、「それで大丈夫だよ」と伝えてあげることから積み重ねて行けたら良いということ共有することが出来た。
- ・ 不登校児への支援について、学力保証をしていくために、ICTを活用して、ZOOMなどでの遠隔授業等を取り入れて行くのも一つの方法であるという意見も出された。

2グループ

- にこぴあ①
- みらいはうす
- ここ園②
- 田検保育所
- いもーれ奄美訪看ST①



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・ 保育所によっては、保健師と密に連携が取れているが、保護者の思いにより、療育での支援を受け入れづらいケースもある。
- ・ 支援が難しい場合は、個別に対応して、専門的支援の必要性を見分けていくことも大切。
- ・ 送迎時のスタッフ不足という課題もある。
- ・ 親子教室を通して、以前に比べたら保護者の理解や療育に対するイメージは良くなってきていると感じる事が増えた。
- ・ 特性のある子どもに対するイメージが変化してきていると感じる一方で、祖父母などの理解がまだ進んでいないと感じることもある。
- ・ 多職種によるカンファレンスがあると良い。この町の特性としてある、顔の見える関係性を強みととらえて、今後の支援につなげていきたい。

3グループ

- 宇検村保健福祉課
- ここ園③
- 高岡保育所
- 古仁屋小①
- 奄美病院①



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・ こだわりが強い子の就学支援として、制服を着る練習は必要かというテーマについて、入学してから練習する時間もあるので無理に練習することはないのではないかという意見や、できる範囲で行いながら、大切なのは就学の際にしっかりと配慮事項を伝達することが大切だというような意見が出された。
- ・ トラブルやかんしゃくの対応については、「かんしゃくが落ち着いたときに話を聞き、お互いの話をすり合わせていく」「落ち着いてから対応する」「話をするだけで落ち着くこともある」「低刺激の環境（安全基地など）を作る、離れてみるなど刺激を減らす」「安心できる場所を保証する」などの意見が出された。
- ・ 高校生以上の子どもへの支援の環境については、高校生になってから医療につながるケースも多い。本人たちは困っていたはずなので、「早期に療育に繋ぐことが出来るように、周囲の気づきが大切」「好きなことや得意なことを発揮する場所が必要」という意見も出された。

4グループ

- 大和村保健福祉課①
- ここ園④
- いすわん
- いもーれ奄美訪看ST②
- 田検中学校



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・ 「療育」という言葉がまだ浸透されていない。
- ・ 多職種との情報共有の難しさがある。
- ・ 島内に専門の機関が少ない
- ・ 「医療機関の充実」「人的資源の充実」「多職種連携のつながりの充実」などが今後の課題
- ・ 学校でも安心して学べる環境作り心理的安全性の確保が言われているが、最近では家庭で、ゲームやスマホなど子どもだけでも楽しめる環境があり、そこに比べると学校教育はまだ充実していないように思う。

5グループ

- 瀬戸内町保健福祉課②
- ここ園⑤
- にこぴあ②
- しゃきょう①
- 奄美病院②



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・ 困り感のある子供やその家族を支える人たちの連携や支援方法について意見交換した。
- ・ 瀬戸内町はSTの不在が長かったが、宇検村からSTが相談会に来てくれるようになり、継続した支援ができるようになり安心できた（発音、聞こえ、食事の支援 等）
- ・ 「ピンチはチャンス」という家族のグループが瀬戸内町にできたことで、地域の方の療育に関する認知度が深まっている様に感じる。
- ・ 療育を受ける数が地域として増えているが、相談支援専門員が足りていないのが今後の検討課題である。
- ・ 10代後半から思春期にかけて、自傷や多量服薬があったり、精神科受診する方が増えているが、幼児期から生きづらさがあったと思われる。今回の研修であったような感情の処理や思いの表出の方法が分からない時には、早い段階で相談に繋ぐことが出来たらよいと思う。

6グループ

- 聖隷かがやき
- ここ園⑥
- しゃきよう②
- 大島特別支援学校
- ていだ



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・巡回相談、療育等支援事業、保育所等訪問支援など、似たような事業の違いについて確認するとともに、これらの事業がそれぞれに動くだけでなく、連携して行っていけたらよいという話が出された。
- ・情報共有の難しさについて意見が出された。学校によっては、情報共有について相談したところ、警戒されてしまったということもあったが、好事例として、学校での取組、事業所での取組を共有し、お互いに有効的な支援を共有できるなど有意義な意見交換を行うことができたという情報提供もあった。
- ・好事例を進めていき、有意義な情報交換ができる体制が地域にできていけば良い。
- ・お互い忙しそうに見えるため、声かけしづらさを感じているかもしれないが、案外声を掛けたら、喜んで意見交換の場に参加してくれるのではないかという意見もあった。
- ・お互いの思いを共有できる関係づくりを行っていく事が大切

7グループ

- のぞみ園②
- ここ園⑦
- つなぐ
- 高岡保育所
- 古仁屋小②
- 宇検村地域おこし協力隊



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・「地域の支援の流れが分からない」「療育資源の確保（地域資源の充実）」「他機関との連携（療育と教育）」などの困り感が挙げられた。
- ・「相談を受けた際に保護者と子どもの想いのずれを感じることがある」「保護者とのコミュニケーションの難しさを感じている」など、保護者との対応に関する困り感も挙げられた。
- ・言葉がうまく使えない子どもへの対応が難しく悩んでいるという困り感もあった。
- ・事業所間のコミュニケーションとして、事業所ごとに支援の方針が異なると悩む場面があるという困り感もあった。
- ・保護者も忙しく、顔を合わせたコミュニケーションが取りづらい状況の時に、LINEやお帳面で連絡を取りつつ、特に気になることは電話するようにしていたり、関係性のできている職員から伝えてもらうようにするなど、できるだけ保護者の負担にならないようにしながらも伝える工夫をしているという意見が出された。
- ・学校との連携が難しいが、教員も忙しい中でどのようにしたら、外部からの訪問者や意見を受け入れ、日々の支援に反映したり、参考にしてもらうことが出来るか考える必要があるという意見が出された。
- ・マンパワー不足の問題も大きいという意見も出された。

8グループ

- 愛かな
- ここ園⑧
- 古仁屋小③
- 名瀬保健所
- 大和村保健福祉課③



【出された意見/共有したこと/感想】

- ・「人材不足」「人材の高齢化」「支援学校のない地域からの通学」「支援学級の担任の専門性のばらつき」等の課題が挙げられた。
- ・地域によっては支援学校に通いたくても通えない状況があるが、地域の学校に通う中で、地域の学校の教員の専門性が不足しているように感じる。
- ・連携が取れていた教員がいても異動により、次の教員と連携が取れない状況になることもある。そのような状態を改善するために、龍郷町では子ども子育て応援課が中心となって「龍郷子ども支援net」を年2回開催し、子どもの支援に関する方たちが集まって意見交換を行っている。どの地域でもこのような取り組みがあれば、多機関での情報共有のための顔の見えるつながりができると感じた。
- ・専門性をあげて行くためには、「繋がる」事が大切。